

脳梗塞の最新治療血栓回収術に対応した救急救命士再教育の取り組み

谷崎 義生¹⁾ 梅沢 厚志²⁾ 蝶谷 努³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 救急部

2) 渋川広域消防本部

3) 館林地区消防組合消防本部

[背景と目的]群馬県では脳卒中救急医療体制整備の取り組みで、救急隊の人材養成を行い、その成果を脳卒中患者の事後検証で確認してきた。脳前方循環主幹動脈閉塞への血栓回収術は適応時間が延長し、群馬県での施行数は増加している。血栓回収術適応患者の病院前救護スクリーンとして日本医大開発の ELV0 スクリーンを採用し、救急隊の再研修を実施しているので、その概要と問題点を報告する。

[対象と方法]対象は 1. 11 消防本部（局）の指導救急救命士 26 名、2. 県消防長会傘下の救急部会が募集した救急隊員 61 名を対象にした。18 問ある確認テストを事前配布資料確認後受講前と、研修終了後に実施、両者の正答率を比較。

[結果]1. 指導救急救命士：受講前 85.3±6.2%、受講後 95.4±6.2%、2. 救急隊：受講前 80.7±10.8%、受講後 89.8±5.4%で、ともに $P<0.001$ で有意に増加した。

[結論]今後は、救急救命士が経験学習プロセスを基本にファシリテーションする、「現場活動をしながらかえられる」救急隊の研修を実施し、事後検証で確認していく必要がある。